周南市立富田東小学校の研修について

研究主題および副主題

かかわり合いを通して深い学びにつながる授業の創造 ～ICT の活用による協働的な学びの実現に向けて～

１　研究主題設定の理由

今年度の富田中学校区小中連携計画では、小中９年間を通した児童に身に付けさせたい力として、「かかわる力」が定められており、本校でも学校経営目標として、「互いが育つかかわりのある学校」のもと、「自ら考え、学び合う子」をめざす子ども像とし、日々の教育活動をしている。本校の児童のよさとしては、表現力や伝える力が高い児童がいる一方、課題として人間関係づくりが苦手な児童がいたり、かかわる力の弱さが原因で学校に登校しづらい状態の児童がいたりする。人間関係づくりが苦手な児童やかかわる力の弱い児童のボトムアップができるような学校生活を送れることが課題解決の糸口になるであろう。学校生活の大半を、授業を受けて過ごす中で、教師が「かかわり合いを通して深い学びにつながる授業」を創造し、児童に「かかわり合いのよさ」を実感させることが、今、求められていると考える。

そこで、日々の授業で他者、社会や集団、自己の三者とかかわり合うような課題設定の工夫、学び合う場面の設定、振り返り等の授業デザインをイメージ・実践することで、児童一人ひとりの「かかわり合い」を保障し、そこから各教科などの特性に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を取捨選択して考えを形成したり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう「深い学び」につなげていくことが重要と考える。学校生活の中で児童同士あるいは児童と教師が共有する時間が最も多いのは授業である。互いにかかわり合うには、受容的・支持的風土に充ちた安心できる授業や環境が必要であり、日常において生徒指導の機能を生かした授業づくりをする中で、「かかわり合いのよさ」を実感させるような授業を展開することが、本校児童の抱える課題を解決する方法の一つになり得ると考え、主題を設定した。

２　研究の視点

（視点１）児童が主体的にかかわり合い、学びを深めるための、ICT の活用の取り入れ方

（視点２）児童が学習活動を振り返り、かかわり合いのよさを実感するための教師の手立て

３　研究の方法

学年ごとに教科を決め、授業研究を行う。研究協議を含めた全体公開授業は、ブロックから１学年（計３学年）が行った。公開授業では、研究協議をワークショップ型で行い、２つの研究視点について協議した。その他に各個人１回、授業を公開する。様々な学習科目での ICT の活用を見るため、教科は自由とした。授業者は、公開後、ミニ研修会をもち、授業の振り返りを行った。その護、最終的にデータ媒体で研修集録を作成した。

４ 成果と課題

今年度は、研究主題を「かかわり合いをとして深い学びにつながる授業の創造～ICT の活用による協働的な学びの実現に向けて」と据え、様々な背景をもちながら学校という場で学ぶ子どもたちが、自己や他者、教材とかかわり合うことで、より深い学習理解に繋げるために実践を重ねてきた。ここで、それぞれの視点について、成果や課題をまとめた。

○視点① 各学年部で児童が主体的にかかわり合い、学びを深めるために様々な ICT の活用を行った。

以下、実践から ICT 活用についてまとめる。

１．授業での教師による ICT 活用

（１）学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるための ICT 活用

教科書のさし絵や資料を大きく映したり、活動の様子の写真や動画を提示したりすることで、学習内容や学習対象に対して興味や関心をもつことができた。また、大きく映して見せることは、よりリアリティをもたせることとなり、児童に驚きや感動を与えるためにも有効だった。

【具体例】

・歌唱教材の歌詞、楽譜を提示することで、歌唱に対する意欲付けを行う。

・行事の活動の様子を写した写真や動画を提示することで、動機付けを行う。

・zoom を使って海外との交流を行うことで、海外への興味関心を高める。

・教科書や資料を拡大して提示することで、読み取りについて意欲付けを行う。

【使用したアプリ】Keynote、カメラ（写真・動画）、zoom

（２）児童生徒一人ひとりに課題を明確につかませるための ICT 活用

教科書の問題文や図表、写真や資料を拡大提示することで、児童一人ひとりがこれから学習する課題を把握するために有効だった。また、自分の演技を映像等で見せることで、他者から言われるのではなく自分自身で課題に気付くためにも有効だった。

【具体例】

・児童が演奏・演技した様子を録音・録画し、その様子を提示して、課題に気付かせるようにする。

・Keynote（プレゼンテーション機能）を活用して、教科書の問題や資料を拡大提示し、学習のねらいをつかませるようにする。

・オクリンクに答えを提出させたものを一斉に提示して、お互いの違いに気づかせるようにする。

【使用したアプリ】Keynote、カメラ（写真・動画）、ミライシード（オクリンク）

（３）わかりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするための ICT 活用

課題解決のためにブロックの操作手順やグラフの読み取りを指導する際のグラフの拡大提示をすることで、児童のつまずきを防ぐためのよりわかりやすい説明をするために有効だった。また、課題について意見をまとめたノートを写真に撮り拡大提示しながら話し合うことを通して、より児童の思考や理解を深める手立てとなった。

【具体例】

・動画コンテンツなどを活用して、実際に見えにくい現象を提示して、学習内容を理解させる。

・実物投影機等を活用して、道具の正しい使い方を指し示しながら説明する。

【使用したアプリ】教科書の QR コード読み取り、カメラ（写真)、NHKforSchool

（４）学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図るための ICT 活用

知識の定着を図る際に、教師が児童生徒一人ひとりの習熟の度合いに応じた指導をしたりするために、ICT が活用できる。

２．児童生徒による ICT 活用

（１）児童生徒が情報を収集したり選択したりするための ICT 活用

観察や実験した結果を写真や動画撮影で記録する等、実際のデータを収集することで、教科書学習内容をより深く理解するのに有効だった。

【具体例】

・児童がカメラの録画機能を使って、実験の様子を動画撮影することで、実験記録として用いる。

【使用したアプリ】カメラ（写真・動画）

（２）児童生徒が自分の考えを文章にまとめたり、調べたことを表や図にまとめたりするための ICT 活用

これまでに学んできたことや調査結果などを活かして自分の考えを文章にまとめたり、資料を根拠に表や図にまとめたりするのが有効であった。また、お互いの考えを共有化することもできた。

【具体例】

・写真やグラフなどの資料から調査した結果や、実験で得られた成果を、Jambord の付箋機能を活用し思考ツールを用いてまとめる。

【使用したアプリ】Jambord

（３）児童生徒がわかりやすく発表したり表現したりするための ICT 活用

資料の注目した部分に印を付けたり、実物投影機にノートを提示することで、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために有効だった。

【具体例】

・児童が iMovie を活用して、行事の様子をまとめ、モニターに提示して発表する。

・児童がノートに書いた自分の考えや操作方法をモニターに提示し、自分の考え方を分かりやすく説明する。

・Airdrop やオクリンクで資料を送信し、資料から気づくことを画像上に書き込んで、自分の考えたことを分かりやすく説明する。

【使用したアプリ】iMovie、カメラ（写真)、Airdrop、ミライシード（オクリンク）

（４）児童生徒が繰り返し学習したり練習したりして、知識の的着や技能の習熟を図るための ICT 活用

○視点②「児童が学習活動を振り返り、かかわり合いのよさを実感するための教師の手立て」について

（１）振り返りの視点

振り返りを書かせる際に、①自分の成長②感想③学習した内容や活動したことのよさ、大切さ④次の学習へ⑤意思表明というような視点を与え、継続的に行っていくことで、友達の意見から学ぼうとしたり、授業前の自分の考えと授業後の考えを比較したりすることができるようになった。教師も振り返り

をするための学習活動を仕組むことが大切である。

低学年、特に 1 年生においては限られた時間の中で振り返りを行うことは困難な場合がある。そのときには、「ひとり」「ともだち」「みんな」「れんしゅう」のどこで分かったのかを〇を付けて振り返ることで、振り返りの視点を持たせることができた。

（2）かかわり合いの目的

「かかわり合い」については、自己・教材・他者とかかわり合うことしてきたが、学級集団の友達とのかかわり合いを重視した実践が主であった。さまざまな教科において、課題について話し合ったり、共に操作・作業をしたりするような場面を設定することで、「かかわり合い」の場面が保障された。しかし、ただ話し合うだけでは「かかわり合いのよさの実感」には繋がらないことへの気付きも挙げられた。よさを実感させるためには、かかわりたくなるような必然性をもった課題設定や発問が大切になる。教師も日頃の授業実践において、何のために関わらせるのか、関わってどうするのかといった、活動の目的を明確にもっておくことを意識した授業づくりをする必要がある。

5 終わりに

今年度は昨年度の主題の主旨を引き継ぎながら、小中連携のテーマである「かかわり合い」と、昨年度からの GIGA スクール構想における一人一台タブレットの活用を兼ねた、「かかわり合いをとして深い学びにつながる授業の創造～ICT の活用による協働的な学びの実現に向けて」を新たに掲げ、校内研修を行った。一人一授業と授業後のミニ研修会を実施することで、それぞれが自身の授業改善や授業づくり、授業の見方等、より授業について深く考えるきっかけとなった。様々な教科を通した ICT の活用についても多様な実践が見られた校内研修となった。今後も児童同士がかかわり合う姿が実現できるよう、来年度の研究に繋げていきたい。